

2016 年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	戦略経営研究科	身分	准教授
氏名	犬飼 知徳		
NAME	TOMONORI INUKAI		

1. 研究課題

（和文）日系グローバル企業における地域統括会社の戦略的意義

（英文）Strategic positioning of a Regional headquarter in Japanese Global company

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）本研究の目的は、日系グローバル企業における地域統括会社の戦略的意義について調査研究を行うことであった。この研究目的に基づき、アジア（特にシンガポールとタイ）に地域統括会社をおく日系メーカー数社に対して聞き取り調査を進めた。その結果として、地域統括会社が海外子会社と本国のグローバル本社との仲介者としてなかなか機能していないことが明らかになった。とりわけ、マーケティングと製造といった機能横断的な役割を担う場合の子会社からグローバル本社に対する調整機能を果たすのが難しいことが調査から明らかになった。具体的には、海外子会社とその現地市場における有望なニーズを発見し地域統括会社に報告したとしても、地域統括会社はそのニーズを汲み取った製品開発を行うのが困難になるのである。その背後にあるメカニズムとして我々は、リバース・イノベーションと呼ばれる現象と行為主体間の権限と責任のズレに注目した。

リバース・イノベーションとは、途上国固有のニーズに対して独自の製品開発を行った結果、その市場におけるニーズのみならず先進国のある種の市場ニーズさえも満たしてしまう現象を意味している。この現象の背後には、現地子会社に対する大幅な権限以上を行うのに対し、事業責任はそれほど強く与えない権限と責任のズレがあった。それに対して、日系グローバル企業の統括会社では、逆のズレ、すなわち結果責任は問われるが権限はほとんど有していない状況が生じていたのである。これが現地子会社とグローバル本社のコミュニケーションや調整を阻害していたと我々は考えている。

（英文）

The aim of this research is to inquire what roles some regional headquarters(RHQs) play in the Japanese global companies. We found out some regional headquarters did not work as a mediator between the global headquarter in Japan and the local subsidiaries. We tried to explain the malfunction by focus on a gap between the authority RHQs had and their responsibility.